編　集　室　よ　り

◇「家を建てる場合でも、その中心となる大黒柱は家の大きさによってその太さがきまる。バランスのとれた状態では大黒柱はその機能を完全に果しているがより以上の大きな家を建て大黒柱だけは前と同じものであると、結局は大黒柱に荷がかかって倒れるとかゆがむことになる。だから大きく家を支えるには、やはり基礎も大きくなければならない。これをささえる柱もそれに応じて太くしなければならぬということはわかりきったことである」これは松下電器産業会長、松下幸之助氏の随筆にある一節です。

◇　長い歴史と伝統をもった我国農業を近代的な企業農業に建て直すことが強く要望されている今、松下氏のわかりきったことというこの考え方がウン蓄のある言葉としてかみしめる必要があるような気がします。

今迄の集約的家族小農経営では完全な機能を果してきた農業の大黒柱も、より大きな農業へ脱皮をしようとする場合、今までの大黒柱に固執していたならば、いくら農業を建て直そうとしても結局は無理が生じてひずんだ農業のまま抜きさしならなくなってしまいます。

近代的農業にはそれとバランスのとれた柱に、基礎から大きくやりかえねばならないことはいうまでもないことです。

◇　近代的農業は労働力を極力省くための機械化農業を進めることと、生産・流通の合理化のために大規模化農業にしていくことでしょう。ところが現実をみますと、50 アールの農家でもトラクターを１台は持ち、しかも農道の不備、耕地の極端な分散をそのままにして農業の近代化を狙うとしています。若い働き手が都市へどんどん流出しているのを補うために機械力の導入も止むを得ないことかもしれませんが農業の仕方は昔のままにして、農業をする人、農業をする道具だけは新らしくかえていく不釣合の上に個々ばらばらの農業が営まれています。大規模化のムードにあやつられて表面だけの協業化に進んで失敗をしています。大黒柱を大きくせずに家を建て直そうとする例が至るところにみられます。

◇　農業の屋台骨は畜産と果樹といわれながら、農業の中で依然稲作部門に圧倒的王座を余儀なくされている畜産、貿易の自由化の波におびやかされ、国内産業の高度成長の余波に圧迫され、農業構造改善事業も主幹作物の選定が行政指導によってその質と量が厳しく制限をうけ、却って地元の熱意に水をさす結果を生じております一方、現在の流通関係や価格問題をみるとき完全な安定対策は講じられない政策の貧困さにさらされ、農民の自発的な熱意だけではどうにもならない問題をかかえておるのが現状です。昨年一年の傾向をふりかえってみると意欲あった人々も目標を失ったかのように活気の欠けて来た面がみられるのは編集者だけの片寄った見方でしょうか。ムード畜産から希望ある畜産へ力強く進むことが今の窮状を脱する根本でなくてはならないでしょう。

◇　昨年の総選挙の結果再び政権に自信をもった池田内閣は公約の完全遂行を大きく打出し、中小企業と農業対策に重点をおくといいます。しかし政府が我々農業者にどんな光明を与えてくれるでしょうか。今月号と来月号に分けて「タツ年の畜産展望」を各部門の代集者に集ってもらって座談会を掲載した。我々も自らの条件をよく把握して要求すべきは政府に強く要望しようではありませんか。

本誌発行機構を改革

◇　かねてから予告しておりました通り本誌も皆さま方の御要望の強かった畜産関係指導広報誌の統合を実

現し、巻も改たまった第 15 巻より、文字通り官民一体となった皆さまの畜産誌として、社団法人岡山県畜産会に引継がれて、継続発行することになりました。発行所は変っても本誌発行の主旨が変ったわけではありません。県畜産課主体の広報紙であったものが県と民間団体（県総合畜連・県酪連・県経済連・県農業共済連・県養鶏組合・県養鶏加工連・県獣医師会・県家畜商協）の協力によってより普遍的な、より地についたものに発展しようと狙ったものなのです。

◇　農業者並びに指導者の身近かな問題をお互いが深く考えあい、意見の交換をする場が本誌の狙いとする処です。本号をご覧になっても理解して戴けるように内容はかなり変えてみました。まだ皆さま方の意図する理想には遠いかもしれませんが運営･編集者一同一層によいものにすべく努力するつもりですから何卒よろしくご援助ご意見をお寄せ下さいますよう、又本誌が末永く続きますよう今までにも増してお引立て下さいますようお願い致します。

皆んなで読んで畜産を伸そう

◇　新年号を契機として本誌の発行形態が変りましたが、これを機会に新らたな気持で本誌をお読み下さるよう知人・グループのお方にお薦め下さい。畜産経営の設計に、又指導用パンフレットに本誌のご利用を切にお願い致します。誌代は諸物価の高くなった折から 1 部 50 円に値上げ致しましたが、それにも増して内容の充実を図りお役に立つものに仕立てて参りますから積極的ご利用を願います。申込方法は前頁の通りで同封の振替用紙に送り先・氏名と予約申込みをする期間・部数を明記の上予約金を振り込めばよいのです。予約は前金を原則としておりますのでご了承願います。一人でも多くの方が本誌の愛読者となり、仲間を作ってお互いの経営を究明し、力を合せて大きな力として行こうではありませんか。新しい形態の本誌発行の要綱を次頁に掲載しておきましたのでご一読ご理解賜わりたいと思います。尚本誌がより皆さまのものになりますよう、編集者へのお便り、又本文記事への反論感想などもどしどしお送り下さい。

「岡山畜産便り」「おかやま総合畜産」愛読者の皆さんへ

◇　前述のような主旨で従来の「岡山畜産便り」と県総合畜連発行の「おかやま総合畜産」は発展的に統合をし、新しい形での「岡山畜産便り」として発行することになり、皆さまには大変ご迷惑をおかけ致しました。永らくのご愛読ご支援を心からお礼申しあげると共に従来に倍してご愛読下さいますようお願い申しあげます。

◇　統合を機会に、従来の会員は 12 月で打切らせて戴き、新年号からは新らたに申込み手続きを新形式でとって貰うことになりますのでご了承賜わりたいと思います。但し誌代前納で予約して下さっているお方には予約期間までは継続送付をさせて戴きます故ご了知下さい。従ってこれに該当する方は予約の切れる翌月から新規基準でお申込み願うことになります。予約の切れる月には当方からご通知致しますからご回答を早急にして下さるようお願い致します。

畜産振興に興味をもって

◇　行き先暗いかのようにみえる畜産ではありますが、とにかく新らしい年は明けました。今年は暖冬とさわがれていますが、農基法制定４年目の今年は岡山県の農業も大きくゆり動かされそうな年です。自信と勇気をもって希望のもてる畜産を築きあげるチャンスの年ともいえましょう。新らたな夢をいだきつつ、その実現に

努力する一年としたいものです。皆々さまの一層の活躍を祈ります。

～新年号からの予約申込を受付け～

誌　代　1部50円（送料共）
年間予約600円（送料共）
但し一部購入の場合は増頁号の誌代をその都度の価格とし、年間予約者は増頁特集号の分も1部50円のサービス価格とす。

集団申込の特典
10部以上を一括で年間予約する方は1部誌代を45円にします。100部以上を一括で年間予約する方は1部誌代を40円に割引きます。但しこの場合は一括購読ですから個人別発送は致しません。

申込方法
同封の振替用紙に代金を添え住所氏名明記の上申込んで下さい。
集団申込は代表者の名で何人分かを明記、誌代合計金額を払込んで下さい。

申込先
　岡山市東田町53の3農業会館内
　社団法人岡山県畜産会管理普及課